

大阪医科大学附属病院整形外科専門研修プログラム

目次

1. 大阪医科大学附属病院整形外科専門研修プログラムについて
2. 大阪医科大学附属病院整形外科専門研修の特徴
3. 大阪医科大学附属病院整形外科専門研修の目標
4. 大阪医科大学附属病院整形外科専門研修の方法
5. 専門研修の評価について
6. 研修プログラムの施設群について
7. 専攻医受入数
8. 地域医療・地域連携への対応
9. サブスペシャリティ領域との連続性について
10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
11. 専門研修プログラムを支える体制
12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について
13. 専門研修プログラムの評価と改善
14. 専攻医の採用と修了

1. 大阪医科大学附属病院整形外科専門研修プログラムについて

初期臨床研修後、整形外科医として後期臨床研修を開始しますが、この専攻医の4年間は非常に重要な意味を持ちます。当教室では、以下の3つの理念を念頭に置き、専攻医の指導、教育に取り組んでいます。

- ①臨床：高度で先進的かつ安全な医療を提供すること
- ②研究：医療の底上げをする理論を構築していくこと
- ③教育：疑問を持ち、合理的に考えることのできる整形外科医を育成すること

専攻医の1年目は全員が大阪医科大学整形外科において研修を行い、論理的思考能力を身につけ、疾患に対する知識、診察手技、画像解釈、診断、手術手技の基本を修得します。さらに学会発表・学術論文の作成を通じて各専門領域における臨床研究にも深く関わりを持つことができます。

大阪医科大学整形外科専門研修プログラムにおいては指導医が専攻医の教育・指導にあたりますが、専攻医自身も主体的に学ぶ姿勢をもつことが大切です。整形外科専門医は自己研鑽し自己の技量を高めると共に、積極的に臨床研究等に関わり整形外科医療の向上に貢献することが必要となります。チーム医療の一員として行動し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くことによって周囲から信頼されることも重要です。本研修プログラムでの研修後に皆さんは運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供するとともに、将来の医療の発展に貢献できる整形外科専門医となることが期待されます。

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児から高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を習得するために、本研修プログラムでは1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとります。全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた単位数以上を修得し、3年9か月間で45単位を修得するプロセスで研修を行います。整形外科後期研修プログラムにおいて必要とされる症例数は、年間新患者数が500例、年間手術症例が40例と定められております。本研修プログラムでは基幹施設および連携施設全体において年間新患者数35600名以上、年間手術件数およそ10606件の豊富な症例数を有しており、必要症例数をはるかに上回る症例を経験することが可能です。本研修プログラム修了後に、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の研修を開始する準備が整えられます。また特例として、3年目までに十分な研修を行うことかできたと判断できた専攻医については、4年目に社会人大学院に入学し、大学および近隣連携施設に勤務しながら研究を開始し、1年早く学位を取得することも可能です。

2. 大阪医科大学附属病院整形外科専門研修の特徴

本研修プログラムでは、基幹施設および連携施設全体において脊椎・脊髄外科、股関節・膝関節外科、肩関節外科、手外科、足の外科、外傷、スポーツ医学、腫瘍、小児整形などの専門性の高い診療を早くから経験することで、整形外科専門医取得後のサブスペシャリティ領域の研修へと継続していくことができます。また基幹施設である大阪医科大学附属病院における研修では、サブスペシャリティに対する専門性の高い研修に加えて、その後の大学院進学に備えた臨床研究および基礎研究への深い関わりを持つことができます。

① 1年目：大阪医科大学整形外科（基礎的な手技と論理的思考を身につける）

大阪医科大学は1927年（昭和2年）に創立され、2017年には創立90年を迎える関西を代表する医療系大学の一つです。大学は大阪と京都のほぼ中央に位置し、大阪、京都へは電車なら15分でアクセスでき、阪急電鉄の高槻市駅前、JR高槻駅からも徒歩圏内と大変恵まれた立地条件にあります。大阪医科大学整形外科学教室は1952年に開講、60年以上の歴史を持つ診療科です。整形外科は運動器を扱う守備範囲の広い科であり、サブスペシャリティは多岐にわたりますが、当教室では各専門領域の指導医が在籍し、大学病院としての高度な医療を提供しています。様々な症例を、上級医と一緒に経験していく中で、基礎的な知識や手技を自然と身につけることができます。また研究面においても各グループで独創性のある研究を行っており、研究成果を世界に向けて発信しています。以下に専門グループにおける最新治療を紹介します。

【脊椎・脊髄外科領域】環軸関節亜脱臼などの上位頸椎疾患や胸椎後縦靭帯骨化症、脊髄腫瘍、高度な変形を伴う側弯症、後弯症など一般病院では対応の難しい高難度の手術を主に行っています。また側方侵入腰椎前方固定手技(OLIF)を用いて、低侵襲で合併症の軽減を目指した矯正固定手術を行っています。さらに骨粗鬆性圧迫骨折偽関節による遅発性神経障害に対しては、無除圧固定術を施行して良好な成績をおさめています。ナビゲーションシステム、手術用顕微鏡、運動誘発電位を用いた術中脊髄モニタリング、術中超音波検査、内視鏡手術などを導入し、安全性を向上させるとともに、効果的な手術を提供できるように努めています。

【上肢の領域：肩関節外科、肘関節外科、手外科】肩関節腱板広範囲断裂に対しては、独自の方法による鏡視下上方関節包再建術を行い、良好な治療成績を得ています。またスポーツによる関節軟骨障害に対する骨軟骨移植術、麻痺に対する機能再建手術、先天性あるいは外傷性の関節変形や拘縮に対する矯正術や解離術、人工関節置換術などを行っています。

【股・膝関節外科】膝のスポーツ損傷例に対しては、鏡視下に靭帯再建術や半月板縫合術を行い、膝蓋骨不安定症に対しても三次元脛骨粗面移動術により良好な治療成績を得ています。変形性あるいはリウマチ性関節症に対して人工関節置換手術

を、また術後に緩みを生じた人工関節の再置換術も行っています。股関節のインピンジメント障害に股関節鏡を用いた低侵襲の手術を行っています。

【足の外科】外反母趾に対しては近位中足骨回外骨切り術により、またその併存症に対しても独自の術式により良好な治療成績を得ています。足関節インピンジメント症候群などスポーツ損傷例に対しては早期復帰を目指し、積極的に鏡視下手術を行っています。また陳旧性アキレス腱断裂に対しては、自家腱を犠牲にしない癒痕組織を利用する手術を行っています。

【その他】重度の骨関節変形や脚長不等に対しては、創外固定器を用いた変形矯正術や仮骨延長による骨長調整術を行っています。骨軟部腫瘍領域や先天性内反足などの小児整形外科領域の難治性疾患に対しても高度な治療を行い、良好な成績を得ています。

大阪医科大学整形外科週間予定

	月	火	水	木	金	土
午 前	外来/ または手術	抄読会 /手術	外来	外来	カンファレンス /手術	外来
午 後	カンファレンス/ 教授回診	手術	手術	諸検査	手術	

指導医、上級医の紹介

教授 根尾昌志（昭和58年京都大学医学部卒業）、脊椎・脊髄外科
 准教授 安田稔人（昭和63年大阪医科大学卒業）、足の外科（足関節鏡など）
 講師 馬場一郎（平成元年大阪医科大学卒業）、脊椎外科、骨軟部腫瘍
 講師 藤原憲太（平成2年大阪医科大学卒業）、小児整形、側彎症
 講師 三幡輝久（平成6年和歌山県立医科大学卒業）、肩の外科（肩関節鏡）
 講師(准)横田淳司（平成3年大阪医科大学卒業）、上肢の外科、基礎研究、外傷
 講師(准)中野敦之（平成7年大阪医科大学卒業）、脊椎・脊髄外科
 講師(准)嶋 洋明（平成9年大阪医科大学卒業）、足の外科（創外固定など）
 講師(准)大槻周平（平成10年大阪医科大学卒業）、関節外科（軟骨再生など）
 助教 大野克記（平成11年大阪医科大学卒業）、手・肘の外科
 助教 岡本純典（平成11年大阪医科大学卒業）、関節外科（膝、股関節）
 助教 長谷川彰彦（平成14年大阪医科大学卒業）、肩の外科（肩関節鏡）

助教(准)中矢良治（平成18年大阪医科大学卒業）、脊椎・脊髄外科

②2年目以降：連携病院での研修（経験の蓄積とスキルアップ）

大阪医科大学整形外科での1年間の研修後は、基本的に1年毎に当教室の連携病院を3年間ローテーションします。当大学の連携病院の詳細は以下に紹介していますが、連携病院においては、骨折等の外傷の診断と治療だけでなく、専門分野に特化した外傷や疾病の診療の研修が可能です。大阪医科大学の研修プログラムでは、専門医試験の受験に必要な全領域の単位が確実に取得できるようにローテーションを組んでいます。この後期臨床研修期間を通して、将来自分が進むべきサブスペシャリティを選択することも可能です。

③整形外科専門医の取得後

専門医試験に合格後の進路としては、大きく分けて大学院へ進学するコースと、直接サブスペシャリティ領域の研修に進むコースがあります。大学院へ進学する場合、研修終了の翌年度より整形外科に関連する大学院講座に入学し、主に基礎研究を行います。大学院卒業後はサブスペシャリティ領域の研修に進み、各分野の臨床、研究に従事しますが、国内外への留学で、さらに研究の幅を深める選択肢もあります。一方、研修プログラム終了後にサブスペシャリティ領域の研修に直接進む場合には、進みたい領域の専門診療班に所属し、大阪医科大学整形外科ならびに連携施設において臨床医として専門領域の研鑽を積みます。

以下に2年目以降にローテーションする連携病院(12病院)の紹介と手術件数表、当大学が提供する研修プログラム例の実際を提示します。

●葛城病院

スタッフ紹介

理事長	大植 睦 (平成3年大阪医科大学卒業)、脊椎・脊髄外科、関節外科
院長	中島幹雄 (昭和56年大阪医科大学卒業)、関節外科
副院長	森本法生 (昭和59年兵庫医科大学卒業)、手の外科
部長	裏岡富次 (平成2年旭川医科大学卒業)、救急・外傷外科
副センター長	常德 剛 (平成4年大阪医科大学卒業)、足の外科、関節外科
部長	北野 直 (平成8年大阪医科大学卒業)、足の外科
医長	小田周平 (平成17年大阪医科大学卒業)、関節外科

後期研修医 1～2名

葛城病院は平成24年11月に岸和田市東部、JR阪和線東岸和田駅から南へ徒歩5

分という利便性の高い場所に移転しました。急性期病棟 153 床、回復期リハビリ病棟 90 床の計 243 床を有する民間病院で、中でも整形外科、脳外科ならびに内科においては、専門的かつ高度な医療をいつでも提供できるように 365 日 24 時間体制で診療を行っております。現在、整形外科は 7 名の日本整形外科学会専門医が勤務しており、それぞれの専門領域は脊椎、関節、手、足と偏在のない配置となっています。整形外科の年間手術件数は約 1700 件で、そのうちの約半数が外傷に関する手術、残りの約半数が疾病に対する手術となっています。平成 28 年度における主な領域の手術件数は、頸・胸椎 36 例（鏡視下手術 4 例）、腰椎 265 例（視鏡下手術 168 例）、人工関節 291 例（股 114 例、膝 177 例）、肩腱板断裂 58 例（うち鏡視下 42 例）でした。これらの手術以外にも悪性腫瘍や小児疾患を除いた広い領域において手術治療を行っており、保存治療例とあわせて豊富な症例を研修中に経験することが可能です。

後期研修医の業務には夜診や当直も含まれておりますが、スタッフが常時バックアップ体制をとることで安心して研修を受けられるシステムを構築しております。多忙ではありますが、限られた研修期間内に効率よく出来るだけ多くの症例を経験し、なおかつ自ら執刀する機会を多く持ちたいと考えておられる研修医の先生にとって、当院は間違いなく最適な研修病院に成り得ると考えています。スタッフ一同、全力で研修のサポートを行いますので是非、当院へ研修にお越し下さい。

●西宮協立脳神経外科病院

スタッフ紹介

副院長・部長 瀧川直秀（平成 5 年大阪医科大学卒業）手・肘の外科、関節リウマチ

副部長 安井憲司（平成 11 年大阪医科大学卒業）肩の外科、手・肘の外科

医長 江城久子（平成 13 年大阪医科大学卒業）関節リウマチ、手・肘の外科

足立 周（平成 17 年大阪医科大学卒業）脊椎・脊髄外科

後期研修医 1-2 名

名誉院長(大阪医科大学名誉教授)

木下光雄（昭和 49 年大阪医科大学卒業）足の外科、関節リウマチ

西宮協立脳神経外科病院は大阪医科大学整形外科の関連病院の最も西に位置する病院です。病床数は 164 床で、1400 件以上の手術を施行しておりますが、地域連携を重視してどんどん転院しますので、整形外科の入院数は 40-50 人程度の急性期病院であります。当院の特徴をまとめますと、下記のようになっております。

- ① 手術数は約 1400 件で新鮮外傷の割合は約 50%。
- ② 各部位で内視鏡手術による最小侵襲手術を施行。
- ③ 手術は基本的に主治医執刀となっており、外傷を中心に多くの症例を経験で

きる。

- ④ 関節リウマチに対して、経口、点滴、皮下注製剤による化学療法を行っている。
- ⑤ 女性医師のための保育所がある。
- ⑥ 日本整形外科学会に加え日本手外科学会、日本リウマチ学会、日本リハビリテーション学会の認定研修施設になっている。

手術は医局員全員が外傷治療に携わり手、肘、肩、足、膝、股、脊椎の専門分野は各専門家が主導しています。内視鏡手術は、指（ばね指）、手関節（手根管症候群、TFCC 損傷）、肘関節（離断性骨軟骨炎、上腕骨外上顆炎）、肩関節（腱板損傷など）、足関節（離断性骨軟骨炎）、膝関節（ACL など）、脊椎（MED, MEL）に使用しており、2 台ある内視鏡を調整しながら手術を行っております。手術室は 2009 年 10 月に南館増設とともに新しくなりました。整形外科は 4 室あるうち 2 室を（時に 3 室）ほぼ毎日朝から夕方まで使用できるいい環境にあります。効率的に仕事ができるため、17 時すぎには帰宅できることと、月曜日から金曜日までの勤務で週休 2 日制のため勉強、研究に費やす時間も十分にとれると思います。当院でよく学び、よく遊びの精神でともに頑張りましょう。

●ベリタス病院

スタッフ紹介

常勤医(5名)

辻村 知行	院長	平成元年卒	外傷・手外科・RA・TKA
服部 匡次	整形外科主任部長	平成 8 年卒	外傷・手外科・TKA
森本 佳秀	整形外科部長	平成 11 年卒	(滋賀医大) 外傷・手外科・THA
福本 晋吾	整形外科医長	平成 18 年卒	外傷・脊椎・腫瘍
後期研修医	平井 宏典	平成 25 年卒	
非常勤専門医	(週 1 日)		
金子 徳寿	脊椎外科指導医	平成 7 年卒	(奈良医大)
根木 陽一郎	リウマチ専門医	平成 7 年卒	

ベリタス病院は、兵庫県川西市にある 199 床の急性期病院でセコム医療システム提携病院（全国 18 病院）の 1 施設です。大阪医科大学附属病院から、電車で約 1 時間、自動車で高速を利用して約 50 分の所にあります。診療科は内科、消化器科、循環器科、外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、小児科、循環器内科、消化器内科、呼吸器科、放射線科、リハビリテーション科、肛門科、神経内科、麻酔科、人間ドック・健康診断、救急部（24 時間診療）です。

整形外科は、4 人の整形外科専門医と 1~2 名の後期研修医の 5~6 人体制で行っています。周辺環境は、自然に恵まれ比較的のどかで、患者層には恵まれています。

川西市の急性期病院としての役割を担っており、救急応需率 70%を目指しています。平成 28 年度の入院患者数は 53.4 人/日、外来患者数は 77.8 人/日、手術症例は、年間 1036 件でした。主に外傷が中心で、他には脊椎手術が 50 件、人工股・膝関節換術が 26 件、大腿骨頸部骨折（人工骨頭挿入術 47 件、骨接合術 27 件）、大腿骨転子部骨折 63 件といった状態です。原則として主治医が執刀するようにしていますので、後期研修医には、多数の症例の手術を執刀する機会が持てるものと思われます。手術件数は比較的多いですが、看護部、診療協力部のスキルも高く、入院から手術まで迅速に対応し、3 人の常勤の麻酔科医の協力のもと医療安全のためにも時間内に手術を終了させるよう努力しています。オンとオフの両立を心掛けていますので、時間内は忙しく、時間外は楽しく、一緒にチーム医療をしませんか。

●第一東和会病院

スタッフ紹介

副院長 藤田晃史（平成 2 年大阪医科大学卒業）、膝関節
部長 森内宏充（平成 9 年大阪医科大学卒業）、膝関節
副部長 河上 剛（平成 13 年大阪医科大学卒業）、肩関節
医師 後藤大我（平成 22 年大阪医科大学卒業）、膝関節
後期研修医 1～2 名

当院は大阪医大の近くに位置していることもあり、サテライト病院としての機能を果たす事と、地域医療へ貢献することが主な使命と考えています。

さらに、我々は膝肩関節の治療を集約的に行える特化型の病院を目指しており、2014 年より膝スポーツ関節鏡センターを開設しました。

病床数は 243 床あり、整形入院の患者さんは 70～80 名前後です。腰椎圧迫骨折等の保存加療症例や術後入院期間が 3 週を超えるような患者さんは、回復期リハビリ病院である第 2 東和会病院に転院して頂き、十分なりハビリテーションの後に退院して頂くシステムをとっています。常勤医は現在 5 名（平成 29 年 4 月）ですので、日中は少し忙しいかもしれませんが、コ・メディカルスタッフとのチームワークが良好なおかげで、夕方には終業できます。

手術室は 6 室あり、病院全体での手術件数は約 4500 件、そのうちの約 4 分の 1 が整形外科です。手術の内訳は、半分が外傷（骨折手術）、半分が疾患（膝と肩関節の手術）です。当院の特徴である膝と肩関節手術には、スポーツ障害では関節鏡を用いた膝靭帯および半月板の手術や肩関節唇手術、また変性疾患では人工膝関節手術以外に高位脛骨骨切り術、関節鏡視下腱板手術が多く行われています。骨折の手術は原則として主治医が執刀するため、研修医の方々には基本的な手術手技を数多く経験して頂くことが出来ると思います。症例によっては膝関節手術も経験して頂きます。

また我々は膝班の理学療法士の方々と共に、月に一度の勉強会や年 2 回程度の

学会参加を行い、研究および向上心を持ち続けることを常としております。
膝または肩関節に興味を持っておられる方は、是非当院に来て頂き、数多くの
膝肩手術を経験して知見を広げて頂きたいと思っております。

●洛西シミズ病院

スタッフ紹介

石津恒彦 昭和57年卒 洛西シミズ病院院長 手外科、救急外傷（大阪医大卒）

奥田龍三 昭和57年卒 シミズ病院副院長 足の外科（大阪医大卒）

田村竜一 昭和61年卒 洛西シミズ病院副院長 関節外科（大阪医大卒）

矢津匡也 平成4年卒 亀岡シミズ病院副院長 脊椎外科（大阪医大卒）

福西邦素 平成5年卒 亀岡シミズ病院整形外科部長 肩関節外科（大阪医大卒）

廣藤真司 平成12年卒 洛西シミズ病院整形外科部長 手外科（大阪医大卒）
専攻医 1～2名

シミズ病院グループは京都市の西京区を中心として、4病院、1医院、2老健施設、
特別養護老人ホームなどを有し、全体で1000床を超える大きな組織です。

整形外科の特徴は大阪医大の常勤医8名で4病院のうち3病院（シミズ病院・洛
西シミズ病院・亀岡シミズ病院）を運営していることにあります。3病院は互いに
車で約10分程度の距離に位置するため、洛西シミズ病院が整形外科センターの役
割を受け持ち、ほとんどの手術は洛西シミズ病院で施行しています。

各常勤医師の専門が足の外科・関節外科・脊椎外科・手外科・関節リウマチ・救
急外傷と整形外科のほぼすべての部位を網羅しており、各医師は種々の専門医を取
得しています。このため高度な技術を要する整形外科治療・手術に幅広く対応が可
能です。年間手術件数は900件前後ですが、増加傾向にあります。救急病院でもあ
り外傷が中心の病院と思われがちですが、半分以上は疾患の手術であり、外傷・疾
患ともに十分な研修が可能です。

当院は以前より回復期リハビリテーション病棟を運営してきました。近年リハビ
リ需要の増加に伴い、平成28年4月洛西シミズ病院の敷地内に100床の専門病棟
と全国有数の面積を持つリハビリセンターがオープンしました。

また手外科や脊椎脊髄病の専門医研修病院の指定を受けています。学会発表など
も積極的に行っています。幅広い技術の取得、臨床研究にすぐれた病院と自負して
おり、整形外科研修の場としてふさわしいと考えます。

●北摂総合病院

スタッフ紹介

院長代理、主任部長 小林一朗（昭和 55 年大阪医科大学卒業）、脊椎・脊髄外科
副院長補佐、部長 劉 長勤（平成 7 年大阪医科大学卒業）、足の外科、関節外科
副院長補佐、手外科センター長、部長 植田直樹（昭和 62 年大阪医科大学卒業）、手外科、骨軟部腫瘍
医長 福井浩一（昭和 63 年大阪医科大学卒業）、リハビリテーション
医員 万波 誠（平成 18 年近畿大学医学部卒業）、関節リウマチ
後期研修医 1～2 名

北摂総合病院は、地域医療支援病院、臨床研修指定病院であり、2017 年 6 月に病院機能評価の 3rdG.Ver1.1 で 4 回目の認定を受けています。217 床全てが急性期病床で、救急医療が当院の柱であり、年間でおよそ救急車搬入 4000、入院患者数 6,450、平均在院日数 11.7、手術室手術 2650、全身麻酔 1600 です。なかでも、整形外科の総手術件数は 1000 件近くにのぼり、精力的に活動しています。

当科では骨折はもとより、手外科、足の外科、マイクロサージャリー、人工関節、脊椎手術、腫瘍など幅広い領域での手術を行っています。2013 年 4 月の手外科専門医の着任以来、上肢骨折、腱・神経損傷などの手外科外傷だけでなく、上肢のリウマチ外科、手根管症候群・肘部管症候群、キーンベック病・デュプイトラン拘縮等の疾患が増えつつあり、近々には日本手外科学会の専門医研修基幹病院の施設認定を取得する予定です。また、難治症例に対する筋弁・筋皮弁や血管柄付き骨移植など、再建手術も施行しています。迅速な対応がし難い症例を担うことで、大学病院をサポートしています。

大学から派遣されるレジデント（後期研修医）が主治医の症例では、多少時間がかかってもできる範囲で手術を完遂させるように指導しております。

当院は診療科、常勤医が多いですがひとつの医局であり、他科と相談しやすい環境にあります。それにより、重度心疾患を伴う高齢者においても、麻酔科とともに、循環器内科のバックアップのもと手術が可能となっております。また、**非常勤で 1 回 / 週 脊椎専門医の外来・手術日があり**、特に必要な症例では大学病院や関連病院のエキスパートの先生からも手術指導を頂いており、これらは当科の強みであると考えています。

●城山病院

スタッフ紹介

副院長 熊野穂積（昭和 63 年大阪医科大学卒業） 下肢、外傷、スポーツ
主任部長 坪井競三（平成 10 年大阪医科大学卒業） 脊椎、リウマチ、リハ

部長 木下明彦（平成 14 年大阪医科大学卒業）、上肢、地域医療
後期研修医 3 名
顧問 阿部宗昭（S41 年大阪医科大学卒業）、手外科、肘関節外科

当院は 299 床だが脳神経、循環器（心臓血管外科を含む）、消化器の各センターに常勤医が 10 名前後在籍しており、総合病院に準ずる規模となっている。そのため様々な全身的合併症にも対応でき、安心して手術を行うことができる。また、麻酔科は夜間、休日の緊急手術にも対応してくれる。当科ではほぼすべての運動器疾患や外傷を取り扱っているが、以下の分野に力を入れている。

1. 脊椎疾患：年回 150 件程の手術件数であり、腰椎が 7～8 割でそれ以外は頸胸椎である。低侵襲手術が 8～9 割を占める。
2. 上肢：末梢神経手術は年 30 例ほど、関節形成や固定術は 10 例ほど。
3. 下肢：人工関節は 20 件ほど（股関節と膝関節それぞれ 10 例）、足疾患は 15 件ほど。
4. 外傷：血管損傷、コンパートメント症候群、ガス壊疽などを毎年数例必ず経験する。イリザロフ創外固定器を常備している。骨盤（寛骨臼）骨折や脊損の手術も行う。

総手術件数は 700～800 件。治療成績は日整会、中部整災学会、骨折治療学会に毎年発表しているが、病院が学会出張費、論文作成費をサポートしてくれるのでアカデミックな活動へのモチベーションが高まっている。

●大阪府済生会茨木病院

スタッフ紹介

院長補佐、部長 杉本裕宣（平成元年大阪医科大学卒業）、手外科、外傷一般
部長 富田誠司（平成 6 年大阪医科大学卒業）、脊椎・脊髄外科
医員 阿部宗樹（平成 10 年兵庫医科大学卒業） 手外科、関節リウマチ、外傷一般
後期研修医 1 名

大阪府済生会茨木病院は、茨木市唯一の公的病院として、病床数 315 床（一般病棟 273、療養病棟 42）を有します。

整形外科の入院患者数は、常時 40 人程度です。

スタッフは、常勤医師が 3 名で、全員が日本整形外科学会認定専門医（日本脊椎脊髄病学会指導医、脊椎内視鏡下手術技術認定医 1 名を含む）です。その他、大阪医科大学整形外科より非常勤医師の応援を受けています。

後期研修医の先生は、外来診療にも携わり、初診患者さんの診療や術後フォローの場として重要な研修の機会が与えられます。

年間手術件数は、約 550 件で、外傷手術が 2/3、脊椎手術 1/3 を占めます。外傷に関しては、四肢全般の手術を扱っています。外傷治療の主役は、研修医の先生で、上級医師のサポートの下で術者として執刀しています。

特に、脊椎外科に関しては、内視鏡下除圧術、ヘルニア摘出術を積極的にしています。また椎体形成術 (Balloon Kyphoplasty)、経皮的椎弓根スクリューを用いた固定、椎弓根スクリューを内側から外側に向かって刺入する方法 (Cortical Bone Trajectory) など最少侵襲手術も取り入れています。

当院の特徴として、女性医師が多く勤務されています (常勤医師の約 1/3)。出産後の勤務体制として、短時間勤務の制度を整えています。院内に保育所を設け、子育てをしながら働く女性医師が勤務しやすい病院となっています。女性医師のキャリアアップを支援しています。

●南大阪病院

スタッフ紹介

副院長	大坂芳明 (昭和 60 年大阪医科大学卒業)、手外科、人工関節
整形外科部長	森川潤一 (昭和 61 年大阪医科大学卒業)、足の外科、骨折
専攻医 1 名	

大阪市住之江区に位置する病院です。地下鉄四つ橋線 北加賀屋駅より徒歩 6 分くらいです。新病院になり 1 年。回復期病棟 50 床を含め 400 床の急性期病院です。病棟は 12 階建て、外来は 4 階建てで別棟です。近隣には大きな病院はなく、地域の基幹病院です。診療科目は、小児科、産婦人科、脳神経外科以外は全てあります。特徴として、腎臓内科、循環器内科はかなり充実しています。また 麻酔科の常勤は 3 名で 緊急の対応もしていただけます。診断科として一般病院には珍しい放射線科医師 2 名 病理医師 1 名が常勤医として、勤務されています。病理解剖や術中迅速も対応可能です。また、放射線科医に整形外科医とは別の視点で、CT、MRI などを診断していただけます。また 整形外科専門医は当然ながらリウマチ専門医を取得するための研修施設にもなっています。初期研修医のための教育担当医師がいることは特徴です。年間 4~6 名の初期研修医が在籍し、全科にわたっての研修をしています。もちろん整形外科も研修期間に入っており、専攻医が教える立場も経験できます。

リハビリのスタッフも充実し PT OT ST など 40 名以上が在籍。

代表手術

原発悪性腫瘍以外の手術はほとんど全て対応しています。年間手術症例は 約 520 例、脊椎、人工股関節、人工膝関節、骨切り術などの疾患に対する手術がそれぞれ約 20 例です。その他外傷が約 350 例です。

主治医制度をとっており、基本的には執刀医は主治医です。よって、専攻医にはほとんどの外傷の手術をしていただくこととなります。

手術室はクリーンルーム 2室含め6室あります。

院内に保育所もあり、小さなお子さんのいる医師が多く利用しています。時間外などはあまりなく、遅くまでよほどのことがない限り病院にいることはありません。

症例などに大きな偏りがないため、幅広い研修が可能です。整形外科だけでなく幅広い知識も得ることができる当病院を研修病院の一つの候補としてみて下さい

●高槻赤十字病院

スタッフ紹介

部長 小田幸作 (昭和 63 年大阪医科大学卒業)、関節リウマチ (膝股関節)
副部長 市場厚志 (平成 2 年大阪医科大学卒業)、膝関節
副部長 徳山文人 (平成 6 年大阪医科大学卒業)、脊椎脊髄外科
後期研修医 1 名

当院は高槻市の北西、駅からバスで 15 分の風光明媚な環境に位置し、地域中核かつ地域医療支援病院としての医療と大阪医大整形外科のサテライト病院としての機能を果たしています。関節においては 25 年の歴史があり、当科で研修した先生の多くが関節を専門にしております。震災などの災害救護の訓練や活動も行っています。今年から “日赤人事交流研修” をスタートしました。

日本整形外科学会専門医制度研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本手外科関連研修施設 女性医師のための保育所があります。

手術室は 7 室 (クリーンルーム 2 室)

特色

- ・手術件数は約 600 件：外傷、疾病半数ずつで、主治医が基本的に執刀します。
- ・**関節手術**：人工関節は股関節が約 40 件 膝関節が 50 件程度。
関節鏡視下での半月板手術、前十字靭帯再建など (ACL 再建は解剖学的再建 約 20 件
半月板は約 40 件)。HTO。
- ・**脊椎手術**：頸椎椎弓形成術、脊椎固定術、椎間板ヘルニア摘出術 (MED)、脊柱管狭窄症も内視鏡的手術も適応に応じて施行。
- ・**関節リウマチ**：T2T の概念のもと、呼吸器科や消化器科とも連携し最新でかつ安全な寛解をめざした治療。
- ・**手外科**：手の外科手術は、阿部名誉教授 (大阪医科大学) の指導の下、高い水準の手術。

関節、脊椎に興味を持っておられる方は、是非当院に来て頂き、膝、股関節、脊椎手術を経験して知見を広げて頂きたいと思っております。

●暇生会脳神経外科病院

スタッフ紹介

副院長 金 基中 (昭和 53 年大阪医科大学卒業)、
部長 小田明彦 (昭和 55 年大阪医科大学卒業)、手の外科
副部長 飯田 剛 (平成 17 年大阪医科大学卒業)、関節外科

後期研修医 1 名

当科の年間手術件数は、500 件ほどで、内訳は外傷が多く、大腿骨近位部骨折は年間 100 件ほどあります。そのうち半数以上の件数を 1 人のローテーターの先生が執刀することになっております。また、日本手外科学会教育基幹病院に認定されていることもあり、肘以遠の上肢の手術は外傷を含めると平成 28 年：214 件であり、手外科関連の手術が多いのも特徴です。

下肢の手術としましては、昨年までは飯田医師が非常勤として大学から来られていた関係上人工関節置換術は週 1 件ペース程度でしたが、今年から常勤医として勤務され、週 2 件のペースで 4 か月先まで予約が埋まっている状態です。また、非常勤医として足の外科が専門の守医師が毎週金曜日に大学から来られ、当院の近くには足の外科を標榜する病院が少なく、大阪医大足の外科班の先生方と共に地域の足の外科中核病院として、これからもより良い治療を提供して行きたいと思っております。

当院の方針は、出来ないことは出来る人に来てもらって当院で手術を行うということをお原則としておりますので、肩に興味を持たれた先生がローテーションで来られていた 1 年間の腱板の手術件数は 7 件あり、ローテーションの先生次第では上肢研修も可能かと思えます。

情報共有手段としまして、毎週金曜 9 時から術前カンファレンス、毎週木曜 15 時から病棟カンファレンス、隔週木曜 17 時から手外科勉強会を行っております。

当院の近くには基幹となる大きな病院がないことから、地域にとって重要な病院であり、また昨年にはすぐ近くにイオンモールが開店したことなどもあり、当院周辺のマンション数も増加し、地域の人口が増えてますます忙しい病院となってきております。のんびりしたい先生にはむかない病院だとは思いますが、みんなで力を合わせて頑張りたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

●蒼生病院

スタッフ紹介

院長 南 龍也 (昭和 63 年大阪医科大学卒業) 手外科、外傷
部長 本田雄一 (平成 5 年大阪医科大学卒業) 脊椎・脊髄外科、外傷
医長 吉村弘一郎 (平成 7 年大阪医科大学卒業) 手外科、外傷

後期研修医 1名

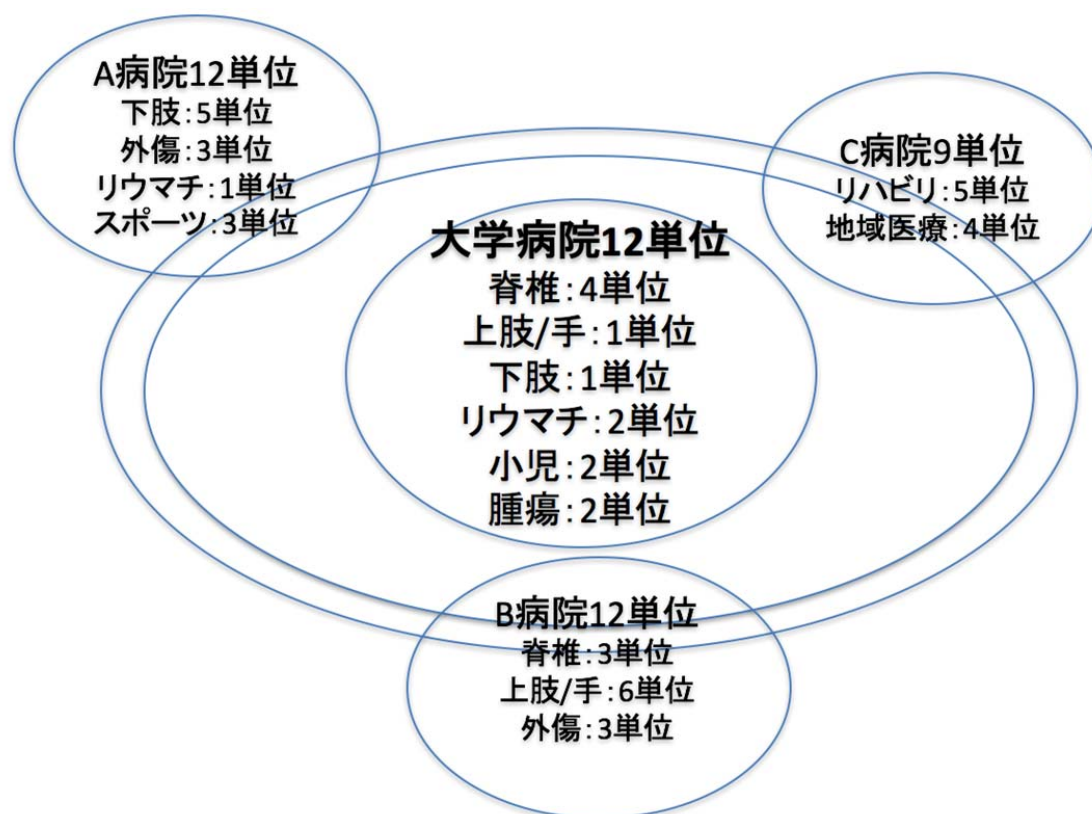
蒼生病院は大阪府門真市にあります。昭和 57 年に開設され、現在は 150 床の一般急性期病院として診療にあたっております。病院を開設された阪本弘彦理事長（昭和 44 年入局）をはじめ、現在の南龍也院長（昭和 63 年入局）も大阪医科大学整形外科学教室の同門の先生です。同門の先生が病院の経営や運営のトップにいることは、整形外科医員として非常に恵まれた職場環境であると考えられます。臨床面では、病院が立地している周囲の整形外科開業医が少ないため、外来業務が多彩で救急を含めた外傷から慢性疾患まで、整形外科医としての外来業務はほぼすべて網羅できます。外来診療は教育や指導が行き届くように、必ず 2 人以上で行っています。当院では研修医の先生も、さまざまな疾患について一人の患者様を外来診療から手術治療その後の外来経過観察までを、自己完結型で行えるようにと考え指導しています、このことは高度に専門化された大病院では経験のできない大切なことだと思います。手術は外傷症例を中心に手の外科・関節・脊椎症例についても行っています。また、研修医の先生にはできるだけ余裕を持った研修を行ってもらえるように、完全週休 2 日制や、当直明けの外来業務や手術業務が入らないような勤務体制をとっています。平成 29 年度には新病院が稼働する予定であり、施設もさらに充実するので、研修の環境面でもさらに発展していけるよう考えています。

手術件数表

No.	施設名称	他プログラムとの関係	都道府県	新患者数(2016)	按分後新患者数	手術数(2014)											按分後手術数	研修可能領域*
						脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	計				
0	基幹施設	大阪医科大学	大阪府	3588	3588	168	98	302	37	27	60	10	76	778	778	1,2,3,5,6,7,8		
1	連携施設	葛城病院	大阪府	4441	4441	302	458	441	476	24	49	24	12	1786	1786	1,2,3,4,5,6		
2	連携施設	西宮協立脳神経外科病院	兵庫県	2296	2296	72	398	156	678	42	77	5	37	1425	1425	2,3,4,5,6		
3	連携施設	ペリタス病院	兵庫県	3813	3813	54	191	129	624	4	1	15	8	1026	1026	1,2,3,4,5,6		
4	連携施設	第一東和会病院	大阪府	3712	3712	0	150	194	415	10	228	10	5	1012	1012	2,3,4,6		
5	連携施設	洛西シミズ病院	京都府	4475	4475	36	68	167	517	3	35	10	20	856	856	1,2,3,4,5,6		
6	連携施設	北摂総合病院	大阪府	2268	2268	72	154	108	536	3	15	1	55	944	944	3,4,5,6		
7	連携施設	城山病院	大阪府	1735	1735	119	73	34	463	3	5	2	10	709	709	1,2,3,4,5,6		
8	連携施設	済生会茨木病院	大阪府	1748	1748	205	48	6	286	5	10	0	7	567	567	1,4,5,6		
9	連携施設	南大阪病院	大阪府	5810	5810	20	57	104	214	15	10	8	11	439	439	1,2,3,4,5,6,8		
10	連携施設	高槻赤十字病院	大阪府	2275	2275	59	193	153	47	75	78	20	5	630	630	1,3,4,5,6		
11	連携施設	昭生会脳神経外科病院	大阪府	2722	2722	0	98	102	225	12	28	23	14	502	502	3,4,5,6		
12	連携施設	蒼生病院	大阪府	3844	3844	27	41	41	362	6	8	0	11	496	496	4		
計				42727	42727	1134	1987	1937	4880	229	604	128	271	11170	11170			

大阪医科大学附属病院整形外科専門研修プログラム例

当教室の専門研修プログラムは大学病院を中心とした太陽系形式の研修プログラムです。



以下に大学病院および連携病院群の研修可能領域一覧を示します。

医療機関	修得可能な研修領域	
大阪医科大学	a,b,c,e,f,g,ij	a 脊椎
葛城病院	a,b,c,d,e,f,g,h	b 上肢、手
西宮協立脳外科病院	a,b,c,d,e,f,g,h	c 下肢
ベリタス病院	a,b,c,d,e,f,g,h	d 外傷
第一東和会病院	b,c,d,f,g,h	e リウマチ
洛西シミズ病院	a,b,c,d,e,f,g,h	f リハビリテーション
北摂総合病院	c,d,e,f,g,h	g スポーツ
城山病院	a,b,c,d,e,f,g,h	h 地域医療
済生会茨木病院	a,d,e,f,g,h	i 小児
南大阪病院	a,c,d,e,f,g,h	j 腫瘍
高槻赤十字病院	a,c,d,e,f,g,	
啜生会脳外科病院	c,d,e,f,g,h	
蒼生病院	d,f,h	

研修コース例（専攻医 6 人の研修施設ローテーション例）です。

医療機関	1年目	2年目	3年目	4年目
大阪医科大学	専攻医 1,2,3,4,5,6			
葛城病院		専攻医 6	専攻医 1	
西宮協立脳外科病院		専攻医 3	専攻医 2	
ベリタス病院			専攻医 4	専攻医 3(9 か月)
第一東和会病院		専攻医 4		専攻医 5(9 か月)
洛西シミズ病院		専攻医 2	専攻医 5	
北摂総合病院		専攻医 1		専攻医 6(9 か月)
城山病院				専攻医 4(9 か月)
済生会茨木病院				専攻医 2(9 か月)
南大阪病院		専攻医 5		
高槻赤十字病院			専攻医 3	
暁生会脳外科病院			専攻医 6	
蒼生病院				専攻医 1(9 か月)

専攻医修得単位例（病院別）を示します。

専攻医修得単位 (病院別)	1年目	2年目	3年目	4年目
専攻医 1	a4,b1,c1,e2,i2,j2	c5,d3,e1,g3	a3,b6,d3	f5,h4
専攻医 2	a2,b4,c2,i2,j2	a4,c3,d3,f1,h1	b4,c3,g3,h2	a1,d3,e3,f2
専攻医 3	a4,b2,c2,i2,j2	b4,c5,d3	a2,d2,e2,f3,g3	a1,b1,d2,e2,h3
専攻医 4	a4,c2,e2,i2,j2	b4,c4,d3,f1	a2,b2,d3,e1,g2,h2	a2,b1,c2,f2,g1,h1
専攻医 5	a4,b4,i2,j2	c2,d3,e2,f3,h2	a4,c4,d1,e1,g1,h1	b3,c1,d3,g2
専攻医 6	a2,b2,c2,e2,i2,j2	a6,b5,g1	d4,e1,f3,g1,h3	c5,d3,g1

専攻医修得単位合計例です。

専攻医修得単位合計	修得単位	計
専攻医 1	a7,b7,c6,d6,e3,f5,g3,h4,i2,j2	45 単位
専攻医 2	a7,b8,c8,d6,e3,f3,g3,h3,i2,j2	45 単位
専攻医 3	a7,b7,c7,d7,e4,f3,g3,h3,i2,j2	45 単位
専攻医 4	a8,b7,c8,d6,e3,f3,g3,h3,i2,j2	45 単位
専攻医 5	a8,b7,c7,d7,e3,f3,g3,h3,i2,j2	45 単位
専攻医 6	a8,b7,c7,d7,e3,f3,g3,h3,i2,j2	45 単位

3. 大阪医科大学附属病院整形外科専門研修の目標

① 専門研修後の成果

整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力(知識・技能・態度)が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること(プロフェッショナリズム)
- 3) 診療記録の適確な記載ができること
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること
- 6) チーム医療の一員として行動すること
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと

②到達目標(修得すべき知識・技能・態度など)

1) 専門知識

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を涵養します。さらに、進歩する医学の新しい知識を修得できるように、幅広く基本的、専門的知識を修得します。専門知識習得の年次毎の到達目標を別添する資料1に示します。

2) 専門技能(診察、検査、診断、処置、手術など)

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する幅広い基本的な専門技能(診察、検査、診断、処置、手術など)を身につけます。専門技能習得の年次毎の到達目標を別添する資料2に示します。

3) 学問的姿勢

臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を修得することができることを一般目標とし、以下の行動目標を定めています。

- i. 経験症例から研究テーマを立案しプロトコールを作成できる。
- ii. 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。
- iii. 結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる。
- iv. 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる。
- v. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。
- vi. 統計学的検定手法を選択し、解析できる。

さらに、本研修プログラムでは学術活動として、下記 2 項目を定めています。 i. 整形外科京阪神集談会への参加および同会での研究発表。

- ii. 外部の学会での発表と論文作成(研修期間中1編以上)。

4) 医師としての倫理性、社会性など

- i. 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること(プロフェッショナリズム)

医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。本専門研修プログラムでは、指導医とともに患者・家族への診断・治療に関する説明に参加し、実際の治療過

程においては受け持ち医として直接患者・家族と接していく中で医師としての倫理性や社会性を理解し身につけていきます。

ii. 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること

整形外科専門医として、患者の社会的・遺伝学的背景もふまえて患者ごとの的確な医療を実践できること、医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応がマニュアルに沿って実践できることが必要です。本専門研修プログラムでは、専門研修(基幹および連携)施設で、義務付けられる職員研修(医療安全、感染、情報管理、保険診療など)への参加を必須とします。また、インシデント、アクシデントレポートの意義、重要性を理解し、これを積極的に活用することを学びます。インシデントなどが診療において生じた場合には、指導医とともに報告と速やかな対応を行い、その経験と反省を施設全体で共有し、安全な医療を提供していくことが求められます。

iii. 臨床の現場から学ぶ態度を修得すること

臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。

本専門研修プログラムでは、知識を単に暗記するのではなく、「患者から学ぶ」を実践し、個々の症例に対して、診断・治療の計画を立てて診療していく中で指導医とともに考え、調べながら学ぶプログラムとなっています。また、毎週行われる症例検討会や術前・術後カンファレンスでは個々の症例から幅広い知識を得たり共有したりすることからより深く学ぶことが出来ます。

iv. チーム医療の一員として行動すること

整形外科専門医として、チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動できること、的確なコンサルテーションができること、他のメディカルスタッフと協調して診療にあたることができることが求められます。本専門研修プログラムでは、指導医とともに個々の症例に対して、他のメディカルスタッフと議論・協調しながら、診断・治療の計画を立てて診療していく中でチーム医療の一員として参加し学ぶことができます。また、毎週行われる症例検討会や術前・術後カンファレンスでは、指導医とともにチーム医療の一員として、症例の提示や問題点などを議論していきます。

v. 後輩医師に教育・指導を行うこと

自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように、学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当してもらい、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導も担ってもらいます。本専

門研修プログラムでは、基幹施設においては指導医と共に学生実習の指導の一端を担うことで、教えることが、自分自身の知識の整理につながることを理解していきます。また、連携施設においては、後輩医師、他のメディカルスタッフとチーム医療の一員として、互いに学びあうことから、自分自身の知識の整理、形成的指導を実践していきます。

③経験目標(種類、内容、経験数、要求レベル、学習法および評価法等)

1) 経験すべき疾患・病態

本専門研修プログラムでは、基幹施設である大阪医科大学整形外科では脊椎外科、上肢外科、下肢外科、スポーツ医学、リウマチ、腫瘍外科、小児整形外科と十分な症例数があり、基幹施設、連携施設での切れ目ない研修で専門研修期間中に経験すべき疾患・病態は十分に経験することが出来ます。また連携病院においては様々な疾患に対する技能を経験することが出来ます。

2) 経験すべき診察・検査等

別添する資料3:整形外科研修カリキュラムに明示した経験すべき診察・検査等の行動目標に沿って研修します。尚、年次毎の到達目標は資料2:専門技能習得の年次毎の到達目標に示します。III診断基本手技、IV治療基本手技については3年9か月間で5例以上経験します。

3) 経験すべき手術・処置等

別添する資料3:整形外科専門研修カリキュラムに明示した一般目標および行動目標に沿って研修します。経験すべき手術・処置等の行動目標に沿って研修します。本専門研修プログラムの基幹施設である大阪医科大学整形外科では、研修中に必要な手術・処置の修了要件を満たすのに十分な症例を経験することができます。症例を十分に経験した上で、上述したそれぞれの連携施設において、施設での特徴を生かした症例や技能を広くより専門的に学ぶことができます。

4) 地域医療の経験(病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療など)

別添する資料3:整形外科専門研修カリキュラムの中にある地域医療の項目に沿って周辺の医療施設との病病・病診連携の実際を経験します。

i. 研修基幹施設である大阪医科大学附属病院が存在する地域医療研修病院において3ヶ月(3単位)以上勤務します。

ii. 本専門研修プログラムには幅広い連携施設が入っています。そのため、連携施設での研修中に以下の地域医療の研修が可能です。

- ・ 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携病病連携のあり方について理解して実践できる。

- ・ 例えば、ADLの低下した患者に対して、在宅医療やケア専門施設などを活用した医療を立案する。

5) 学術活動

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得します。また、臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導きだし、論理的に正しくまとめる能力を修得するため、年1回以上の学会発表、筆頭著者として研修期間中1編以上の論文を作成します。

大阪医科大学整形外科同門会が主催する整形外科教育研修会(年 2 回 3 講演、4 年間で 12 講演)に参加することにより、他大学整形外科教授からの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。

京阪神整形外科集談会への参加(年 2 回)、さらに同会での研究発表を行うことにより、臨床研究に対する考え方を習得することができ、また学会発表に対する訓練を積むことができます。

4. 大阪医科大学附属病院整形外科専門研修の方法

① 臨床現場での学習

研修内容を修練するにあたっては、1か月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを 10 の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9か月間で 45 単位を修得する修練プロセスで研修します。

本研修プログラムにおいては手術手技を600例以上経験し、そのうち術者としては 300例以上を経験することができます。尚、術者として経験すべき症例については、別添する資料 3:整形外科専門研修カリキュラムに示した(A:それぞれについて最低5例以上経験すべき疾患、B:それぞれについて最低1例 以上経験すべき疾患)疾患の中のものとします。

術前術後カンファレンスにおいて手術報告をすることで、手技および手術の方法や注意点を深く理解し、整形外科的専門技能の習得を行います。

指導医は上記の事柄について、責任を持って指導します。

②臨床現場を離れた学習

日本整形外科学会学術集会時に教育研修講演(医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む)に参加します。また関連学会・研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修会、各種研修セミナーで、国内外の標準的な治療および先進的・研究的治療を学習します。特に本研修プログラムでは、大阪医科大学大学整形外科同門会が主催する教育研修会(年 2 回 3講演、4 年間で 12講演)に参加することにより、他大学整形外科教授からの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。

③自己学習

日本整形外科学会や関連学会が認定する教育講演受講、日本整形外科学会が作成する e-Learning や Teaching file などを活用して、より広く、より深く学習することができます。日本整形外科学会作成の整形外科卒後研修用 DVD 等を利用することにより、診断・検査・治療等についての教育を受けることもできます。

④専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス

整形外科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力(コアコンピテンシー)を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力(コアコンピテンシー)を早期に獲得することを目標とします。

1) 具体的な年度毎の達成目標は、資料 1:専門知識習得の年次毎の到達目標および資料 2:専門技能習得の年次毎の到達目標を参照のこと。

2) 整形外科の研修で修得すべき知識・技能・態度は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性を対象とし、専門分野も解剖学的部位別に加え、腫瘍、リウマチ、スポーツ、リハビリ等多岐に渡ります。この様に幅広い研修内容を修練するにあたっては、別添した研修方略(資料 6)に従って1か月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9か月間で45単位を修得する修練プロセスで研修します。研修コースの具体例は上に示した通りです。

5. 専門研修の評価について

①形成的評価

1) フィードバックの方法とシステム

専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表(資料7)の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表(資料8)で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表(資料7)の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。尚、これらの評価は日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムからwebで入力します。指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

2) 指導医層のフィードバック法の学習(FD)

指導医は、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努めています。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案(研修目標、研修方略及び研修評価の実実施計画の作成)、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

②総括的評価

1) 評価項目・基準と時期

専門専攻研修4年目の12月に研修期間中の研修目標達成度評価報告と経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技術、医師としての倫理性、社会性などを習得したかどうかを判定します。

2) 評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行います。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

3) 修了判定のプロセス

研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。修了認定基準は、

i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること(別添の専攻医獲得単位報告書(資料9)を提出)。

- ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
 - iii. 臨床医として十分な適性が備わっていること。
 - iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30単位を修得していること。
 - v. 1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文があること。
- の全てを満たしていることです。

4) 他職種評価

専攻医に対する評価判定に他職種(看護師、技師等)の医療従事者の意見も 加えて医師としての全体的な評価を行い専攻医評価表(資料 10)に記入します。 専攻医評価表には指導医名以外に医療従事者代表者名を記します。

6. 研修の施設群について

専門研修基幹施設

大阪医科大学整形外科が専門研修基幹施設となります。

専門研修連携施設

大阪医科大学整形外科研修プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の通りです。専門研修連携施設の認定基準を満たしています。

- ・葛城病院
- ・西宮協立脳外科病院
- ・ベリタス病院
- ・第一東和会病院
- ・洛西シミズ病院
- ・北摂総合病院
- ・城山病院

- ・ 済生会茨木病院
- ・ 南大阪病院
- ・ 高槻赤十字病院
- ・ 暁生会脳神経外科病院
- ・ 蒼生病院

専門研修施設群

大阪医科大学整形外科と連携施設により専門研修施設群を構成します。

専門研修施設群の地理的範囲

大阪医科大学整形外科研修プログラムの専門研修施設群は兵庫県、大阪府、京都府にあります。施設群の中には、地域中核病院が含まれています。

7. 専攻医受入数

各専攻医指導施設における専攻医総数の上限(4学年分)は、当該年度の指導医数×3 となっています。各専門研修プログラムにおける専攻医受け入れ可能人数は、専門研修基幹施設および連携施設の受け入れ可能人数を合算したものです。またプログラム参加施設の合計の症例数で専攻医の数が規定され、プログラム全体での症例の合計数は、(年間新患数が 500 例、年間手術症例を 40 例)×専攻医数とされています。

この基準に基づき、専門研修基幹施設である 大阪医科大学附属病院整形外科と専門研修連携施設全体の指導医数は41名、年間新患数42700名以上、年間手術件数およそ11170件と十分な指導医数・症例数を有しますが、質量ともに十分な指導を提供するために 1年6名、4 年で24名を受入数とします。

8. 地域医療・地域連携への対応

整形外科専門医制度は、地域の整形外科医療を守ることを念頭に置いています。地域医療研修病院における外来診療および二次救急医療に従事し、主として一般整形外科外傷の診断、治療、手術に関する研修を行います。本研修プログラムでは、地域医療研修病院に 3か月(3 単位)以上勤務することによりこれを行います。

地域において指導の質を落とさないための方法として、地域医療研修病院の指導医には大阪医科大学整形外科同門会が主催する整形外科教育研修会の参加を義務付け、他大学整形外科教授の多領域における最新知識に関する講義を受けると同時に、自らが指導する専攻医の集談会あるいは学会への参加を必須としています。また研修関連施設の指導医は、研修プログラム管理委員会に参加するとともに、自らが指導した専攻医の評価報告を行います。同時に、専攻医から研修プログラム管理委員会に提出された指導医評価表に基づいたフィードバックを受けることとなります。

9. サブスペシャリティ領域との連続性について

大阪医科大学整形外科研修プログラムでは各指導医が脊椎・脊髄外科、関節外科、上肢の外科、下肢の外科、スポーツ整形外科、外傷、骨軟部腫瘍、小児整形等のサブスペシャリティを有しています。専攻医が興味を有し将来指向する各サブスペシャリティ領域については、指導医のサポートのもと、より深い研修を受けることができます。なお、専攻医によるサブスペシャリティ領域の症例経験や学会参加は強く推奨されます。

10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

11. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である大阪医科大学附属病院においては、指導管理責任者(プログラム統括責任者を兼務)および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には添付した日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専

攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年に一度開催します。

②労働環境、労働安全、勤務条件

労働環境、労働安全、勤務条件等は各専門研修基幹施設や専門研修連携施設の病院規定によります。

- 1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- 2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- 3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- 4) 施設の給与体系を明示し、4年間の研修で専攻医間に大きな差が出ないように配慮します。

専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従います。さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始の時点で説明を行います。総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は大阪医科大学附属病院整形外科専門研修管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれます。

12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

①研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

原則として別添資料の日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システム(作成中)を用いて整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価および症例登録をweb入力で行います。。

②人間性などの評価の方法

指導医は別添の研修カリキュラム「医師の法的義務と職業倫理」の項で医師

としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表(資料 10 参照)を用いて入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。

③プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した①整形外科専攻医研修マニュアル(資料 13)、②

整形外科指導医マニュアル(資料 12)、③専攻医取得単位報告書(資料 9)、④専攻医評価表(資料 10)、⑤指導医評価表(資料 8)、⑥カリキュラム成績表(資料 7)を用います。③、④、⑤、⑥は整形外科専門医管理システムを用いて web 入力することが可能です。

専攻医研修マニュアル (日本整形外科学会ホームページ参照)

日本整形外科学会が作成した整形外科専攻医研修カリキュラム(資料 13)参照。

自己評価と他者(指導医等)評価は、整形外科専門医管理システム(作成中)にある④専攻医評価表(資料 10)、⑤指導医評価表(資料 8)、⑥カリキュラム 成績表(資料 7)を用いて web 入力します。

1) 指導者マニュアル (日本整形外科学会ホームページ参照)

日本整形外科学会が作成した別添の整形外科指導医マニュアル(資料 12)を参照。

2) 専攻医研修実績記録フォーマット

整形外科研修カリキュラム(資料 7 参照)の行動目標の自己評価、指導医評価及び経験すべき症例の登録は日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムを用いてwebフォームに入力します。

3) 指導医による指導とフィードバックの記録

日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表、指導医評価表 webフォームに入力することで記録されます。

4) 指導者研修計画(FD)の実施記録

指導医が、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講すると指導医に受講証明書が交付されます。指導医はその受講記録を整形外科専門研修プログラム管理委員会に提出し、同委員会はサイトビジットの時に提出できるようにします。受講記録は日本整形外科学会でも保存されます。

13. 専門研修プログラムの評価と改善

①専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーション終了時(指導医交代時)毎に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより研修プログラムの改善を継続的に行います。専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないように保証します。

②専攻医等からの評価(フィードバック)をシステム改善につなげるプロセス

専攻医は、各ローテーション終了時に指導医や研修プログラムの評価を行います。その評価は研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出、研修プログラム管理委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

③研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査に対して 研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者ならびに専門 研修指導医及び専攻医は真摯に対応、プログラムの改良を行います。専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

14. 専攻医の採用と修了

① 採用方法

応募資格

初期臨床研修修了および日本整形外科学会に加入済みまたは加入予定の者であること。

採用方法

基幹施設である大阪医科大学附属病院整形外科に置かれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表します。毎年7月頃より説明会などを複数回行い、整形外科専攻医を募集します。

翌年度のプログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『大阪医科大学整形外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出します。